



2024年8月29日

各位

会社名 アジャイルメディア・ネットワーク株式会社
代表者名 代表取締役社長 寺本 直樹
(コード番号 6573 グロース)
問合せ先 取締役 CFO 野口 敦司
(TEL. 03-6435-7130 (代表))

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2024年5月13日に公表しておりました2024年12月期（2024年1月1日から2024年12月31日）の通期連結業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年12月期通期連結業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	398	△215	△218	△224	△10.02
今回修正予想 (B)	443	△273	△276	△282	△11.87
増減額 (B-A)	45	△58	△58	△58	
増減率 (%)	11.3	△26.9	△26.6	△25.8	
(ご参考) 前期実績 (2023年12月期)	289	△427	△439	△491	△27.06

2. 業績予想修正の理由

セグメント別に見ますと、売上については、まずアンバサダー事業(後述の幼児用教材販売事業を含みます)において「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」(2024年3月29日開示)にあるとおり、アンバサダープログラム導入数を52件と予測しておりました。しかしながら受注の進捗に遅れが見られ、本年度における受注件数は30件に留まり、売上が減少する見込みです。一方で株式会社グローリーの株式取得・子会社化(2024年7月29日開示)により進出した幼児用教材販売事業による売上の増加が見込まれています。

また酸素ボックス等の高気圧酸素機器及び酸素発生器の設計、開発、製造、販売、並びにレンタルを行う製造販売業については受注の進捗に遅れが見られ、売上は低調に推移しています。

一方で、前回予測時における見込みに含まれていなかった新規事業である EC による小売業(2024 年 6 月 3 日開示)の売上が好調に推移しており、これらの理由により売上高が前回予想を上回る見込みとなりました。

セグメント別 売上高予測 内訳

	アンバサダー事業		製造販売業	EC による小売業	他	合計
	アンバサダー事業	幼児用教材販売事業				
前回発表予想 (A)	百万円 297	百万円 -	百万円 97	百万円 -	百万円 4	百万円 398
今回修正予想 (B)	246	41	55	88	10	443
増減額 (B-A)	△51	41	△42	88	6	45

※アンバサダー事業セグメントについては「アンバサダー事業」「幼児用教材販売事業」に分けて表記しています。

利益については、上記の通りアンバサダー事業および製造販売業において受注の進捗に遅れが見られております。これらの理由により利益は前回予想を下回る見込みとなりました。

セグメント別 営業利益予測 内訳

	アンバサダー事業		製造販売業	EC による小売業	他	合計
	アンバサダー事業	幼児用教材販売事業				
前回発表予想 (A)	百万円 △152	百万円 -	百万円 △17	百万円 -	百万円 △44	百万円 △215
今回修正予想 (B)	△198	△1	△39	7	△42	△273
増減額 (B-A)	△46	△1	△22	7	2	△58

※アンバサダー事業セグメントについては「アンバサダー事業」「幼児用教材販売事業」に分けて表記しています。

※「他」については上記 3 つのセグメントに含まれない各単体事業についての収益および費用より計上しており、本社経費についてはアンバサダー事業に含めております。

以上により、前回発表の業績予想に比べ、売上高は増加し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がそれぞれ損失拡大する見込みとなったので、今回の業績予想の修正を行うことといたしました。

なお、今回の業績予想の修正につきましては、株式会社グローリーの株式取得・子会社化 (2024 年 7 月 29 日開示) 後に改めて精査を行ったところ、修正が必要となったため、本日の開示となりました。

(注) 上記の業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいたものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

以上